

## 気付きや驚きを広げる(飼育環境) 二本松市立下川崎幼稚園(福島県二本松市)

### 環境構成の工夫

#### 玄関を活用した飼育コーナー《 配慮と工夫 》

小動物(カブト虫・ザリガニ・どじょう・いもりなど)を友達とかかわり合いながら、飼育・観察するためには、最も目に付きやすい玄関が適切であると選んだ。



#### <子どもの姿ややりとり>

「うわぁーこんなにたくさん！」  
「ありがとう！」  
「すごい！」  
「手でさわっちゃだめなんだよ」  
「図鑑持ってこよ！」「うん！」  
「これ大きい！これちっちゃすぎ…」  
「こっちのおもしろい色だ！」  
「ザリガニつるの楽しかったね」  
「うん！」

すぐに目に入る玄関は、子どもたちにとって触れ合い・語らいの場である。発見や気付きや感動を、友達や保育者・親・祖父母・来客と誰にでも伝えることができた。また、小動物が苦手な子ども毎日、目にすることで次第に慣れてきた。

#### 観察方法の工夫《 配慮と工夫 》

カブトムシの幼虫を30匹ほどいただいたので、友達と見比べ、成長を楽しみながら飼育・観察できるようみんなの飼育箱と一人一人の飼育箱を準備した。



「あっ！ボクのうごいてる！」  
「Mちゃんのはどうしてる？」  
「しんぱいだね」  
「こんなにうんこしてる！」  
などお互いの友だちの箱と共同の箱を見比べながら、世話をして誕生(羽化)する日を楽しみにしていた。

自分のものに愛着や責任を持って喜んで飼育(霧吹き、うんちとり)・観察できた。一人一人並べて置くことによって友達と見比べ、ちがいや様子などを、友達に教え合ったり、苦手な子には、世話をしあげたりする姿が見られた。



#### たくさんの生き物との触れ合いができる工夫(ピオトープを作る)

##### 《 配慮と工夫(保育者の願い) 》

- ・めだかを放してみたい
- ・どんな生き物が集まるか子どもと共に喜び合いたい
- ・間近で触れ合って観察したい
- ・ピオトープがあるといいなという保育者の願いが保護者の協力で叶えられた。

日曜日、早朝の作業…「どのくらい掘りますか?」「土手の清水をひっぱりたいんだって!」「たにし、いっぱいいるから持って来っかんない!」どのお父さんも、子ども達のためにと、優しい言葉をかけながら一所懸命作業をした。お母さんと子どもたちは仕上がるまで見守った。

##### - 初めて水を入れた日 -

「おいけができてうれしいね」  
「ピオトープっていうんだよ」  
「水を運んで来てエ」



##### - 田植えをした日 -

「植え方上手だね!」  
「ボクもやりたい!」  
「わたしにもやらせて!」



水を入れたり、採集をしたり、観察をしたりと手にとって気付きや変化がわかるようなピオトープになる。様々な人達の触れ合いから子どもたちは気付いたこと、感じたこと、思ったことなど自分のことばで伝えるようになり、物の見方も育ったように思われる。

##### - 採ってきた小動物を放した日 -

「こおい虫、かくれちゃった!」  
「いっぱい!」  
「仲間がふえたね」  
「こっちに来た!」



##### - めだかの赤ちゃん、生まれた! -

「お母さん来て!来て!めだかのあかちゃん手で救えるの!」

### みどころ

飼育物とのかかわりを考えるだけでなく、子ども同士の触れ合い、様々な人とかかわりも考慮して、3つの工夫が示されています。誰もが目に付きやすく触れ合いや語らいの場になっている玄関。自分で責任を持って愛着をもって飼育する個人の飼育箱とみんなで見たり世話をしたりする共同の飼育箱。子どもと保護者、保育者が協力して、より自然に近い生き物のためのピオトープを作り、自然に触れ合う環境。このような工夫を子どもと共にすることで、生き物への関心のもち方やかわり方が変容していくことが期待できます。